

3月8日のウクライナ情報

安齋育郎

①ヌランド米国務次官が退任へ、ウクライナの強力な支持者(2024年3月6日)

※安齋注:ヌランドは2009年に発足したオバマ政権時代の国務次官補として、ジョー・バイデン副大統領ともどもウクライナの対米従属化と対ロ・ウクライナ戦争を画策指揮してきた政治家です。

【ワシントン 5日 ロイター】 - 米国務省は5日、同省ナンバー3のヌランド次官(政治担当)が近く退任すると発表した。ヌランド氏はロシアの侵攻を受けるウクライナの強力な支持者として知られる。

ブリンケン長官は声明で、ヌランド氏がウクライナ問題で指導力を示してきたと高く評価。「(ヌランド氏の)取り組みはロシアによる全面的なウクライナ侵攻に立ち向かい、プーチン大統領の戦略的失敗を確実にするため世界を結束させるのに不可欠だった」と述べた。

後任が決まるまで、バス次官(管理担当)が代行を務める。

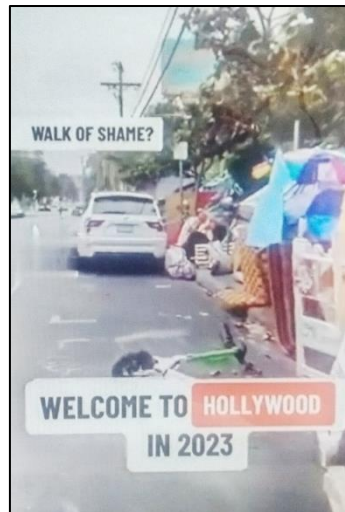
ヌランド氏は国務省報道官や北大西洋条約機構(NATO)大使なども務めた。

ホワイトハウスは、正式な後任候補に関するコメント要請に応じていない。

②ロサンゼルスは終焉を迎える(2024年3月6日)

※安齋注:ウクライナ支援の前にアメリカ国民のためにやることがある。「恥の道」って書いてありますね。

<https://twitter.com/i/status/1765225618806112697>



<https://twitter.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1765225618806112697?s=09>

③現職バイデン氏、準州で無名候補にまさかの敗北(2024年3月6日)

※安齋注:広いアメリカの大統領選候補に事実上バイデンとトランプのような人物しか出ない(出られない)の葉、アメリカ民主主義が如何に腐敗しているかを示していますね。

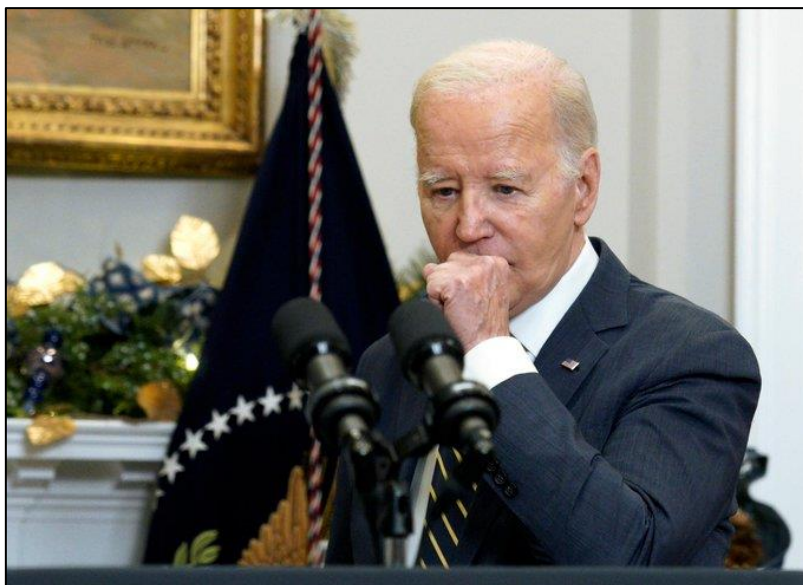
米大統領選の民主党予備選挙は 5 日、米領サモアの党員集会で、現職のジョー・バイデン氏が無名の候補者に敗北した。現職大統領が泡沫候補に敗れるのは極めて異例。

「スーパーチューズデー」のこの日は共和・民主両党の予備選挙が各州などで実施された。#バイデン氏は各地で圧倒的勝利を収めたが、米領サモアでは違った。

ここでは実業家のジェイソン・パーマー氏が 51 票を獲得したのに対し、バイデン氏は 40 票だった。本人は「友人からの電話やメールで自分が勝ったと知った」と話しており、まさか勝てるとは思っていなかったようだ。

米領サモアは準州で、大統領本選挙への投票権はないが、党候補者を選ぶ予備選挙への参加は認められている。

一方、この日に 15 州で行われた共和党予備選挙で、再選を目指すドナルド・トランプ氏は 12 勝 1 敗とライバルのニッキー・ヘイリー氏を圧倒。「素晴らしい夜だ」と述べ、勝利を宣言した。残る 2 州の結果はまだ出ていない。



https://twitter.com/sputnik_jp/status/1765253131791712360?s=09

④マリウポリ産婦人科爆撃事件のその後(2024年3月6日)

マリウポリの空爆を受けた産婦人科病院の現場で写真に写って有名になって、ロシアの偽情報のターゲットになった妊婦が、ロシアに強制移住させられた住民に含まれていて、ロシアによる病院への空爆を否定するインタビューをさせられたのか。

※ホントは➡マリアンヌさんは親露派で、あのと元気な赤ちゃん産んで、マリウポリの親露派小学校でボランティアをしていました

真実を言ってしまうアゾフから命を狙われてしまったので現在はモスクワに移住してます。国籍もロシアになってますね。

<https://twitter.com/i/status/1510248172026830849>



<https://twitter.com/kazukazu881/status/1510259366456446987>

〈参考〉『安齋育郎のウクライナ戦争論』32～33頁)

① マリウポリ小児科・産科病院爆撃事件

ロシアの爆撃を受けてマリウポリの小児科・産科病院から血まみれの妊産婦が赤ちゃんを抱いて脱出する写真が世界に報道され、大きな衝撃を与えました。しかし、実は映っている妊婦はウクライナの女優マリアンナ・ボドグルスカヤさん、赤ちゃんは人形、血痕は赤ペンキだったのです。

小児・産科病院爆撃事件(2022年3月9日)



産科病院はかなり前に廃止され、ウクライナ軍の軍事施設になっていた。ゼレンスキー大統領が「マリウポリの小児病院をロシアが空爆し、子どももがれきの下にいる」と言ったのは作り話だった。

左の写真の退避する妊婦はCMにも出ている女優マリアンナ・ボドグルスカヤさんで、美容ブロガーのインフルエンサーとして有名、抱いている赤ちゃんは人形、顔の血痕はペンキだった。ペンキのバケツが映像に映っていた。

それは2022年3月11日のことでした。ウクライナの極右民族主義者(ネオナチ)を主体とするアゾフ連隊の本拠地であるマリウポリで、「産院がロシア軍の攻撃を受け妊婦や子どもに被害が出た」というニュースが世界に発信されたのです。この頃、マリウポリの総合病院がアゾフ連隊の管理下に入っていたことや、アゾフ連隊がしばしば一般市民を「人間の盾」として用いていることは知られていましたが、日本の大手メディアはこの「産院爆撃」がウクライナ政府内のネオナチ勢力による情報戦の一環である可能性を全く検証することなく、徹頭徹尾「ロシア軍の残虐行為」であると強調しました。メディアは、私たちにとって事実を知るための重要なツールですが、メディアはまた、フェイク・ニュースを垂れ流して人々に真実でないものを真実だと信じ込ませるためにも重要な役割を果たしますので、よくよく注意が必要です。

⑤「トランプ再選なら恥ずかしい時代になる」Dスペクター断言「誰も信用しない」杉村太蔵は再登板熱望論「気持ち分かる」(デイリー、2024年3月6日)

国の大統領選における共和党の指名選挙で圧倒的な強さを見せるトランプ前大統領について、タレントのデーブ・スペクターが6日、テレビ朝日「ワイド！スクランブル」に出演し、懸念を示した。

16州・地域の予備選・党員集会が集中するスーパーチューズデーも大半の州を制したトランプ氏が大統領に返り咲いたらという話に、デーブは「本来の共和党なら、ウクライナ支援をやめるなんて考えられない。やめると死者は確実に増える。アメリカのリーダーシップが台無しになるという、非常に恥ずかしい時代に入る」と断言した。

さらに「トランプが本当に相手のことを考えたり、相手の国益を考えて行動するならばまだいいですけど、自分がこうすれば格好良く思われるとか、金正恩と会ったら褒められるとか、強く見えるとか、それしか考えてないんですよ。それがあつ限りは、誰も信用できない。かつてプーチンを褒めたり、ロシアとズブズブという印象がすでに付いてる訳ですから、もしウクライナの支援を完全に引いたら、大

変な批判を浴びると思います」と厳しく批判した。

それに対して、元衆院議員の杉村太蔵氏はトランプ寄りの発言。「バイデンさんが、2期目になったときにウクライナ戦争を止める力があるのか。あるなら今、示してほしい。北朝鮮のミサイルだって、確かにトランプさんのときは、あまりやってなかったね。バイデンさんになってからやってるよね」と現在のバイデン政権への物足りなさを表明した。

続けて「そう考えると、4年前のトランプ政権のやってきた実績に対して、支持している人たちが、もう一回やってほしいと言う気持ち、ボクなんかも分からなくはない。『必ずしも、陰謀論だけじゃないんじゃないですか?』とデーブさんにいつも言うことなんですけど」と、トランプ再登板を期待するかのような話しぶりだった。



https://news.yahoo.co.jp/articles/380573d56a4933d8c01726f2f07a0b86737034a4?source=sns&dv=pc&mid=other&date=20240306&ctg=dom&bt=tw_up&s=09

⑥香港カラー革命を指導した CIA とイギリス(2024年3月6日)

「CIA と英国は香港のカラー革命に深く関与し、CIA は暴動を指導するためにウクライナのアゾフ大隊を香港に派遣した」

★知っている人もいると思いますが、アゾフ大隊はナチスです。CIA はそのナチスを香港に送り込み、暴力的で残虐な「民主化運動」を指導したのです。周庭に騙されないでね。



<https://twitter.com/D9bf0NRDYrL21Ba/status/1765272645547733148?s=09>

⑦ ザハロフ露外務省報道官 ニーランド米國務次官の辞任理由を説明(2024年3月6日)

ロシア外務省のマリア・ザハロワ公式報道官は、ヌーランド米 국무副長官の数週間以内の辞任決定の理由について、ジョー・バイデン政権の反露路線の失敗と関連していると述べた。ザハロワ氏は自身のテレグラム・チャンネルを通じて見解を表している。

ブリンケン米 務長官は、ヌーランド 務次官が数週間以内に辞任する意思を表明したことを明らかにした。

「どうしてだと言いましょうか。訳は単純なことです。バイデン政権の反露路線が失敗したから。ヴィクトリア・ヌーランドが米国の基本的外交路線として提案してきたロシア嫌悪が重石となって、民主党を奈落の底に引っ張っているのです」

ヌーランド氏は 2013 年に 務次官補・欧州・ユーラシア担当に任命された。ユーロ・マイダンの最中に何度もウクライナを訪れ、キエフのクーデターの立役者の一人とみなされている。



https://twitter.com/sputnik_jp/status/1765077597288063476

⑧CNN が突然真実を伝え始めたとか何とか(2024年3月6日)

チャソフ・ヤールの住民はロシア軍の進駐を望んでいる。

- 親戚はみんなロシアにいる。
- 水もガスも明かりも何もない。ウクライナ人は民間人をいじめている

<https://twitter.com/i/status/1765262113445228945>



<https://twitter.com/2Sbsc/status/1765262113445228945?s=09>

⑨さとうまきこさんのナフリヌイ問題についてのコメント

※安齋注: 以下は、ウクライナ情報読者のふうこさんから紹介されたさとうまきこさんのコメントです。長いですが

紹介します。

- 1) ナワリヌイ死亡の政治利用の試みの大失敗
～動画が知らせた若きナワリヌイのナチス嫌い～
- 2) 全米民主主義基金～ウクライナとナワリヌイの両方に資金提供
- 3) アサンジュ裁判で「やぶ蛇」となっている米国式「民主主義」

ジュリアン・アサンジュとナワリヌイに対するメディアの姿勢の違いはダブルスタンダードだと批判されていますが、いまだに日本の TV では「反体制派」と持ち上げています。しかし<アレクセイ・ナワリヌイ>は、2010年頃から米国によって用意されてきた、作られたヒーローだったようです。

ナワリヌイは「リベラル」ではなく「ネオナチ」でもありません。ロシアの栄光を取り戻したい「ナショナルリスト」だったところを、2010年に米国(イエール大学)の薫陶と資金提供を受け始めたらしいので、その頃から反プーチンを標榜し始めたのだらうと思います。

自分の当初の主張とは矛盾する人間だったので、結論としては「米国に買収された人物」と言えると思います。CIA や MI6(英国)の「資産」であったと、英・米の元情報機関退役者は語っています。市長選に出たときに 20 数%の支持率があったようですが、現在はイラクの国連核兵器査察官であったスコット・リッターによれば彼の党への支持率は 4%ほど、TV では 1%という日本人評論家もいました。(ロシア最大の野党は共産党だそうで、14%の支持率があるそうです。)

しかしなぜ、ロシアを悪魔化するためには何でも政治利用しようとするウクライナ側が、ある日突然、ロシアの主張を認めたのか、その理由がわからなかったところ、ある動画が理解を助けてくれました。

さらにその後、非常に重要な情報が含まれる記事が、やはりイタリアから発信されました。

これら2つのため、ウクライナはさすがごと、ロシアへの責任転嫁論を取り下げざるを得ないという、カッコ悪い結果となったのだらうと思います。

米国について言えば、ウクライナとナワリヌイのどちらにも、つまりロシアとプーチンを外と中から崩壊させるために、米国の基金団体を通じて資金援助していた事実が広く伝えられてしまいました。さらにアサンジュと面会した米国人へのプライバシー侵害行為については憲法違反であると考えられ、「民主主義」の面目が立たないものとなっています。

ナワリヌイの死をロシア悪魔化ができる絶好の機会として政治利用しようとした側にとって、すべてが「裏目」に出ってしまったわけです。

=====

(1) ナワリヌイ死亡の政治利用の試みの大失敗～動画が知らせた若きナワリヌイの“ナチ嫌い”～
まず、死亡前後のタイムラインは以下です。

.....

- ・2月14日 弁護士が面会
- ・2月15日の撮影画像 (<https://www.youtube.com/watch?v=KxGO4eAhQZA>)
- ・2月16日 ナワリヌイ死亡報道 (欧米日メディアが即座に一斉にほぼ同じ内容で報道)
同日、ゼレンスキー大統領、ドイツ首相との共同記者会見で「プーチンによって殺された」と発言
- ・2月24日 米国が最大規模の追加制裁発表
(<https://www.youtube.com/watch?v=BvIeFVQ0gKk> 日テレニュース 2024/2/24)
米・カービー大統領補佐官「この制裁はナワリヌイ氏の死に対する対応の始まりにすぎない」

・2月26日ウクライナ情報局長が、多少ともロシアの発表どおり血栓で死亡したと発表
(<https://www.kyivpost.com/post/28630> キエフポスト 2024/2/26、8:14am)

「ウクライナ国防省情報機関のトップ、ナワリヌイは血栓により死亡したと思われると発表」—「皆さんを失望させるかもしれないが、我々が知る限りでは、彼は実際に、血栓の結果として死んだ。そのことは多少とも確認された」、「このことはインターネットからは得られていなかった、しかし不運なことに自然のもの(死因)だった」—

…………….(ここまで)…………….

「失望させる」、「不運なことに」という表現に、悔しさがのぞきます。「ナワリヌイ殺害＝民主主義に遠い国、ロシア」というような、G7 内での反ロシア意識を高めようとキエフ政権が考えていたことは、確かでしょう。

ウクライナが戦争開始以来、初めてロシアの主張をいきなり認めたことが何か変に思われたので、ナワリヌイが唱道していた「Narod Movement(大衆運動)」で検索してみると、ナワリヌイが運動への参加を呼びかけていた 2007 年の動画が、2 週間前の 2 月 20 日頃にイタリア語の吹き替えでアップされていたのを見つけました。

～～～(ここから)～～～

■2024/2/20 頃にイタリア語の吹き替えで投稿されたもの

https://www.reddit.com/r/TheDeprogram/comments/1aszz8q/navalny_become_a_nationalist_propaganda_video_for/?rdt=61324

「ナワリヌイ:『ナショナリストになりなさい!』ロシアの政治運動 N.A.R.O.D.(大衆)用の政治宣伝動画 2007 年」<ロシア語→イタリア翻訳動画、の動画下にある英語翻訳の訳>

(訳)

・動画中の自己宣伝字幕:「アレクセイ・ナワリヌイ、証明されたナショナリスト」

(ナワリヌイ。以下「ナ」)「ハロー! 私は人々とともに大いに働き、我々の社会が虫歯によって破壊されていることに気づいている。」

◆0:09(映像:集団による器物破損、侵入などの犯罪)

(ナ)「この虫歯の怪物たちは自分たちを「ナショナリスト」と呼ぶが、臨床的な映像はあらゆる場所で理解されうる。」

◆0:17<映像:鉤十字シンボルのある黒い腕章と黒ネクタイをつけたロシアの若いネオナチたちの、変形ハイル・ヒットラー型の歓呼「Glory to Rus!ロシアに栄光あれ!」—その後<虫歯のある歯の X 線写真の拡大し>

(ナ)「この場合に、私は完全な公衆衛生をお薦めする」

◆0:22「映像:死亡したナチス」<*ロシアのナチスと思われる人間たちの死体の映像。仰向けになった3つの遺体がひとつずつ映像で示された後、それぞれの遺体にナチスを示す赤字の鉤十字マーク腕章などの映像が後付けされる—その後<虫歯のある歯の X 線写真の拡大し>

(ナ)「我々はもはや、やっつける必要はない。我々(ロシア)を乱すものすべてを優しく、しかし断固として、送還によって除去すべき」

◆0:30 [強制送還]

<映像:アジア系らしき人物の部屋で衣服が放り投げられる。すべてアジア系らしき群衆の空港での出国ゲート前の行列。飛行機の離陸シーン> → <その後、虫歯のある歯の X 線写真>

(ナ)「頭にカルシウム水が入っている者たちだけが、ナショナリズムは暴力であると考え。ルーツのない歯は死んでいる、と呼ばれる。ナショナリストとは「ロシア」世界からロシアのルーツの除去を望まない人のことだ。我々にはロシアにおいてロシア人となる権利がある。そして我々はこの権利を守る。

MARPD—ロシア国家の解放運動。【あなたの未来について考えなさい---ナショナリストになりなさい】(終)

~~~~(ここまで)~~~~

ナチスの遺体にナチスマークをつけ「完全な公衆衛生」を行なったとする「ナショナリスト」

ナワリヌイは、あきらかにナチスドイツをからかっています。下記のコメント欄は、その点は触れず、映像にあったロシアのネオナチや暴力主義の極右と比較した場合のナワリヌイの運動を、暴力的なものではないとして、ある程度、評価しています。しかしこれは黨員集めの政治宣伝動画ですから、当然、実際よりはマイルドなものであったでしょう。

(コメント欄にある動画投稿者 Only-Combination-127 のコメント:

「基本的にはこのビデオにおいて、ナワリヌイは、(自分たち)よりさらに過激なロシアの極右運動を批判しており、移民に対する直接的暴力方針の代わりに国外追放を提案している。)」

2月20日頃にアップされたこの動画を見たウクライナのネオナチやゼレンスキー政権は、'まずい' と思ったでしょうし、ナワリヌイのナチスドイツ嫌いははっきり認識したでしょう。どちらの側も「ナショナリズム」を唱道するナショナリストでありながら、ナチスドイツに対する考えが正反対であるわけです。ウクライナ側には「優性人種」であるナチスドイツを崇拝し、戦って死んだ後に行くヴァルハラを夢見る、スラブ人を憎んでいる人種差別主義のアゾフ連隊とそのリーダーのアンドレイ・ビレツキーがいます。一方、ナワリヌイはロシアの栄光の回復を主張しているので、当然、第二次大戦中にソ連(ロシア)の首都まで侵攻してきたナチスドイツに崇拝意識などあるわけもないだろうと思えます。

さらにもうひとつ、2月26日にカナダの反グローバル化にウェブサイト、以下の(2)記事が出たことも、ウクライナと米国にとっては、大きな裏目が出たと思われます。

時差上ではカナダはウクライナよりも9時間早いので、ウクライナ側が報道発表した26日の朝8時は、カナダでは同日の17時なので、おそらくこの記事はウクライナ側の報道発表の時間までには既にアップロードされていたと推測します。

## (2)全米民主主義基金~ウクライナとナワリヌイに資金提供

上で「ウクライナ」と書いていますが、おそらくはネオナチのグループに資金提供したのだろうと思います。

~~~~(ここから)~~~~

<https://www.globalresearch.ca/silence-guilty-deathof-alexei-navalny-manlio-dinucci/5850694>

「罪あるものの沈黙 ナワリヌイの死」

By Manlio Dinucci Global Research, February 26, 2024

(訳)

欧米は声をそろえて、プーチンがナワリヌイの暗殺を命じたと非難している。しかし彼の死のタイミングは非常に疑わしい。死亡した2月16日は、ミュンヘン安全保障会議の開催日で、またプーチンの

タッカー・カールソンとのうまくいったインタビューの 1 週間後、さらにはプーチンが候補者であるロシアの大統領選挙まであと 1 ヶ月という日だった。言い換えれば、仮にプーチンが暗殺させたのであれば、それは自分自身に最大のダメージを与えるのに最もよい頃合いだったことになる。

同時に、欧米の政治的メディアは、ナワリヌイがイエール大学の特別コース(*)で訓練されていたという事実、および彼の白人至上主義の「Narod 運動」が、<100 もの諸国で“民主主義を進める”ために数千もの NGO に資金提供している非常に有力な“民間の非営利財団”である『全米民主主義基金』(★)>によって資金を提供されている事実には沈黙のカーテンを引いた。

ウクライナの前線では、ロシアがすでに征服したドンバスの様々な場所から反攻してくるなかを、米国、NATO および EU によって支援されるキエフ軍がカオス状態で退却している一方で、米国はパレスチナの人々に対するイスラエルの虐殺の戦略においてイスラエルを支持し続けながら、中東における戦争の前線を拡大しつつある。

ジュリアン・アサンジュの政治的裁判の最終章は、この背景で起こった。ロンドン裁判所は、そのオーストラリア人ジャーナリストの米国への追放に関する決定を行なったが、米国に引き渡されれば、米国の戦争犯罪を明るみに出した罪で、175 年の刑を宣告される可能性がある。しかしロンドンの裁判所はまだその決定を発表していない。それは来月(3 月 4 日)に行なわれる。(終)

(*日本語ウィキペディア「アレクセイ・ナワリヌイ」より:2010 年には米国イエール大学

から奨学金を貰い、グローバルリーダーとしてイエール大学フェロープログラムを受けている。)

(★「全米民主主義基金(<https://www.ned.org/>)」の、「中央および東欧での活動」

全米民主主義基金(NED)が支援を提供するヨーロッパのすべての諸国—ベラルーシからボスニア・ヘルツェゴビナまで、そしてウクライナからセルビアまで—……)

~~~~(ここまで)~~~~

レーガン政権時代に創設され、CIA が秘密裏に行なっていたことを公然と行なう、とされる「全米民主主義基金(NED)」が、「民主主義を進めるために」ウクライナとナワリヌイに資金提供していた一方で、CIA 長官と CIA は、他国において米国民を監視させるという憲法違反の行為をしていたことが、現在、ジュリアン・アサンジュの裁判のサイドライン裁判として、訴えられています。

### (3)アサンジュ裁判で「やぶ蛇」となっている米国式「民主主義」

以下の 2 つの記事から、トランプ政権時代に、アサンジュの面会人に対して米国憲法上の侵害をスペインの会社にさせた CIA とその長官の行為が民主主義と言えるのか、ロシアだけを非難できるのか、ロシアを非難しておいてアサンジュを 175 年、米国の刑務所に閉じ込められるのか、という疑問が一般社会に生じてくるわけです。

~~~~(ここから)~~~~

<https://www.counterpunch.org/2024/02/19/whats-at-stake-for-julian-assange-and-the-rest-of-us/>

「ジュリアン・アサンジュにとって—そして私たちにとって—危うくなっているもの」

Counter Punch 2024/2/19

(部分訳)

…アサンジュと彼を訪問する人たちは、医者や弁護士を含み、彼とのやりとりのすべてを録画された。そしてそれらは最終的には CIA へと送られた。訪問中は電子機器を押収され、写真を撮影され、

その情報もまた CIA へと送られたが、それゆえにそれらの行為は、法的な諸権利と医学上の守秘義務—プライバシーに対する憲法修正第 4 条はいうまでもなく—に違反しており、さらにアサンジュの法的訴えを深刻なまでに損なっている可能性もある。

二人の弁護士と二人のジャーナリストが、CIA とマイク・ポンペオおよび、エクアドル大使館におけるスパイ活動を実行したスペインの警備保障会社である UC グローバルを相手に、これらの法律違反に対する訴訟を起こしている。そしてニューヨークのひとりの連邦裁判事が、その訴訟を取り上げることに同意した。

...

「諜報活動取締法」は、今まではそれによってジャーナリストや出版社が起訴されることが決してなかったもので、その名前が示すように、国家防衛情報を敵—「エスピオナージ」はフランス後のエスピオン、すなわちスパイに由来する—に渡すことで米国の戦争行為を損なうために働く米国人を起訴するために、作られたものだ。

アサンジュは米国市民ではないだけでなく、さらに彼はウィキリークスを公表しているときヨーロッパにいたのだ……

.....

■<https://www.youtube.com/watch?v=khlmWvX5TA8>

NEW BREAKTHROUGH in Julian Assange case! Could be devastating for CIA
「ジュリアン・アサンジュのケースにおける新たな展開は、CIA にとって大打撃となる可能性
(部分訳)

..原告はマイク・ポンペオと CIA に対するこの訴訟で何を申し立てているのか？CIA は彼らが その大使館に入ったときに、何をしたのか？

・ケビン)彼らの申し立てでは、ロンドンのエクアドル大使館のセキュリティーを担当 していたこの UC グローバルという出先が協力して、アクセスを持っていたと考えられる米国の情報機関および CIA に、彼らのオーディオ、ビデオの情報を渡していた、という。だから彼らはジュリアン・アサンジュおよび、訪問を受けるあらゆる人間に対して絶えず監視をすることができたのだ。

アサンジュを訪問したときに起ることは、セキュリティー検問を受けることだ。それは法廷に入ることとは異なるものだ。しかし、それは刑務所にいる人間を訪問するのに似ていて、持ち物、電子機器、その他のものは持ち込めず、セキュリティー担当係に預けて、それから部屋に入ってアサンジュに面会し、終わって出てくれば、預けたものを返してもらう。

しかしこれらのアサンジュ面会者が知らなかったことは、それらの契約業者が優先的なターゲットと見なされていた個々人に関するファイルを作成していたことだ。その一部のケースでは、契約業者は、携帯の物理的構造の写真を撮って、IMEI と呼ばれる、登録サービスが使う ID ナンバーを得るために、彼らの携帯電話を分解したりした。

それは、重大な権利侵害的な行為であり、彼らがそのナンバーを得ると、個人の動きをたどったり追跡したりするために使える。おそらく特に、彼らはそれを、個人にサービスを提供しているモバイルのプロバイダーなどすべてにリンクすることができるだろう。

さらに彼らは、(面会者たちの)パスポートの写真を撮った。それが主要な点だ。なぜなら、あなたのパスポートの写真を撮るのは、あなたがアメリカ人であることを彼らが知っていることを意味する。だからもし、ロシア人、あるいはイスラエル人でも英国人でもその他の国の人間でもがその大使館に来れば、米国の情報機関が彼らを監視しても OK だ。しかし米国憲法がその点に触れている限りでは、

情報機関が彼らをスパイするターゲットにするためには、その人間たちが面会部屋に入るときに彼らがアサンジュと共謀している、何らかの犯罪を計画しているとかの想定がなければならない。

特に、彼らが人権と報道の自由を支持すると主張していて、それが世界に通用している国の弁護士やジャーナリストである場合には、そうだ。

～～～(ここまで)～～～

CIA と当時のその長官であったマーク・ポンペオは、殺人計画を持っていた点、不当な監視を行なわせた点で、訴えられています。これが「民主主義」を標榜する国のすることだろうか、と普通の市民なら思えるわけです。ここでも、ナワリヌイの死が、米国にとっての「やぶ蛇」となっています。

いずれにせよ、ナワリヌイは血栓ができたために自然に死亡した(ロシア側によって殺されたのではない)と、【ウクライナが認めた】ことだけは事実です。

<わかったこと>

・ナワリヌイは、移民とナチス嫌いのナショナリストであったが、2010 年から米国の指導や資金提供を受けて、反プーチンを標榜していた。ロシアにとっては「敵国のために働くスパイ」だった。

・米国は、ロシア嫌いのウクライナのネオナチにも、ナチス嫌いのナワリヌイにも、資金提供していた。

・米国の「民主主義」は、ナワリヌイには考慮されても、ジュリアン・アサンジュには適応されていない。

・CIA のアサンジュ面会者に対する監視は、米国修正憲法違反。

長くなりすみません。

さとうまきこ

⑩ヌーランドが職を辞した理由

司法省と FBI は、国務省と CIA からウクライナに支出された 2000 億ドル以上の支出先について調査を開始した。

ヌーランドが職を辞した理由が明らかになった。- FRWL の報道



https://twitter.com/djuric_zlatko/status/1765388987496018052/photo/1

⑪ポーランド農民、ウクライナ支援に怒り(2024年3月7日)

ポーランドの農民は、ウクライナ支援に猛烈な反対デモ！ JPメディア, NHK は、このような事実を報道してますか？

<https://twitter.com/i/status/1765592371473924205>



<https://twitter.com/takana333/status/1765592371473924205?s=09>